

第6学年 社会科学学習指導案

い組 男子18名 女子20名 計38名
指導者 鮫島 純二

1 小単元 今につながる室町の文化

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに源平の戦いや鎌倉幕府の成立、幕府と御家人との関係、元寇など、それまでの貴族中心の政治や文化に変わり、地方に勢力を広げ、質素儉約かつ質実剛健な態度で戦に備えた武士の暮らしを学習してきている。このような学習をしてきている子どもたちは、武士の政治や生活、文化について興味・関心をもち、今後の武士の時代の展開を追究していきたいという意欲が高まってきている。

そこで本単元では、建造物や絵画など室町時代を発祥とする文化遺産が今日の生活文化に結び付いているということをとらえさせようとするものである。さらに、建築様式や水墨画等の写真や絵図、年表等を、資料活用力を発揮させて詳しく調べていく活動を通して、室町時代の政治との文化の地方への伝播を関係付けて考えることができるようにするものである。また、より豊かな生活を求めた人々の働きに共感させて、我が国の歴史や伝統を大切にしようとする態度を育てようとするものである。

この学習は、織田信長や豊臣秀吉など、天下統一に向けて活躍した人々や、徳川家康が江戸幕府を確立したことを追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

室町時代の都では、三代将軍足利義満から八代将軍義政の時代にかけて新しい文化が登場してきた。この頃の文化は民衆に深く浸透し、今日の生活にも受け継がれている。これまでの貴族と武士の文化の中に中国の文化が取り入れられ新しい文化として花開いてくることになる。また、室町時代に興った新しい文化には、京都の金閣・銀閣、書院造といった建築様式、能や狂言といった諸芸能、生け花や水墨画などの芸術面など、現在の生活にも身近に見られるものが数多くある。また、これらの文化は、応仁の乱によって地方に伝わり、民衆の間に広がっていき、日本の伝統文化を築いたという点で重要な役割を果たしている。

そこで、ここでは、この時代の文化を追究する活動を通して、それまでの時代には見られない新しい文化が、京都の室町を中心として発展してきたことや、それが地方に広がり民衆に浸透して現在まで受け継がれてきたことをとらえさせるようにする。

そのためにもまず、室町時代を代表し世界的にも有名な文化遺産である金閣や銀閣、水墨画について調べ、当時の文化や現在の生活や文化とのつながりについて追究していきたいという意欲を高める。次に、この時代に興った建築様式や水墨画の内容や関連する人物を追究させる活動を通して、室町の文化が貴族風の文化と武士風の文化に加え、中国風の文化を融合させた新しい文化であることをとらえさせる。つぎに、茶の湯や生け花、お伽話といった文化も関連的に取り上げ、現在の生活文化に直結しているものであるという事実をよりよくとらえさせるとともに、今日に伝わる諸文化がこれまでの時代の人々によって大切に守られてきたということに気付かせていく。そして、写真や絵図、地図、年表等の資料を基に、室町の文化の特色や現在の文化とのつながりなどを考えさせたり、グループや全体で話し合わせたりしながら、室町文化に対する見方や考え方を高められるようにする。その際、単元全体を通して社会的な見方や考え方を深めるために、「記述」、「解釈」、「説明」、「論述」の言語活動を充実させ、調べたことや考えたことを表出させるようにする。

子どもたちが追究していく中で、資料の中から歴史的事実について根拠を明確にしながらノートに「記述」させる。次に、自分なりに追究したことを予想と比較しながら「解釈」していく。そして、記述や解釈を基に、文化の興隆や地方への伝播と人々の働きや思い等と関係付けて話し合わせるなどして、室町時代の文化の特色について「説明」させるようにする。さらに、本単元

の学習問題や予想を振り返らせ、自分なりの見方や考え方を発揮させて、室町時代の政治や文化様子について個人まとめ等に「論述」させるようにする。

(3) 子どもの実態（調査人数38名、質問紙法、ウェッビング法、重複回答、主な項のみ記述）

1	室町時代に活躍した人物 武田信玄(7), 足利義満(6), 足利義政(5) 足利尊氏(5), 織田信長(4), 分からない(22)
2	室町時代に興った文化 水墨画(5), 金閣・銀閣(5), 分からない(31)
3	室町時代で学習したいこと 栄えた文化(5), 活躍した人物(18), 人々の暮らし(9), 社会の出来事(11)
4	活用する資料（教科書, 資料集以外） インターネット(35), 人に聞く(13), 歴史資料館等(5), 図書・参考書(26)
5	資料活用能力
①	絵図…立地(24), 関連(14), 数(4)
②	年表…長さ(22), 社会の様子(8), 区分(3), 変遷(2)
③	グラフ…変化(18), 関連(14), 比較(6)
6	歴史を学ぶ楽しさ 新しい事実の習得(12), ルーツを探る(5),
7	取り組んでみたい言語活動 絵図等を活用した個人まとめ(12), 根拠を示した分かりやすい説明(13), 声・態度に気を付けた説明や発表(12), 新聞形式での単元まとめ(6)

この学級の子どもたちの室町時代の文化についての見方・考え方は、次の通りである。

子どもたちは、質問やウェッビング図の傾向から室町時代の様子として足利氏を中心とした人物や建造物を挙げている子が多く見られる。歴史に関する本やテレビ等からの情報であるが、分からないと答えている子どもも多数存在しており、子どもたちにとってまだ十分意識化されている時代でないと言える。一方、学習したい内容では文化や人物、くらし等に関心が向けられている。学習する際に調べたことまとめるには、これまでの学習を生かしてノートに絵図や表、キーワードや箇条書を活用し簡潔に記述する方法で行っている。また、グループや全体での発表、話し合いの場面では調べ考えた事実をできるだけわかりやすく、そして根拠を示しながら説明しようとしている子どもが多い。調べたことや考えたことを表現する手段として、年表や新聞形式を挙げている子

どもが多い。

そこで、この時代の学習に当たっては、代表的な文化遺産を中心として、関連する人物やその当時の社会、人々の生活の様子などと関連付けて、室町文化の特色について追究させていきたい。そして、写真や絵図、年表等で調べ学習を進めていくとともに、現在に見られる具体物や文化を嗜む人々を活用することで、より実感を伴った理解へとつながられるようにしたい。また、グループや全体の場において、資料等を用いた根拠のある説明や、意見を交換し合う場を設けて歴史事象に対する理解を深めさせ、かつ、友達の意見を参考にしながら歴史事象に対する多面的な見方・考え方が培われるようにしていきたい。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。

単元の学習過程においては、平安時代における貴族を中心とした日本風の文化の学習を生かして、その学び方を生かしたり、平安と室町時代の文化を比較したりしながら主体的に追究させていく。その際、室町時代の文化が、現在の生活文化に受け継がれ日本の伝統文化の基礎を築いていることをよりよくとらえさせるために、建築様式と絵画を中心に引き上げ、地図や写真、年表等を活用させながら、これまで続けてきた背景を考えさせる。その際、絵図や年表を活用した記述による一人調べ、事実を根拠にしたグループや全体での話し合いや説明、歴史新聞等による歴史的事実のまとめや自分の考えの整理といった言語活動を展開していきたい。

ア まず、金閣や銀閣の特徴や建立の背景、東求堂と現代の和室の様子を調べる活動を通して、「この時代の文化にはどんなものがあり、現在とどう関わっているのだろうか。」という問題意識もたせ、この時代に興った新しい文化の様子や現在身の回りで見られる生活文化とのつながりについて追究したいという意欲を高めたい。次に、年表や地図を基に追究させながら、鎌倉幕府が倒れてから、足利氏が勢力をもち京都の室町に幕府を開いたことや、義満や義政といった将軍が、室町を中心に新たな文化を栄えさせたことをつかませるようにする。そして、予想を話し合わせながら追究計画を立てさせ、自分なりの考えを基に見通しをもって追究させていきたい。

イ 室町時代に興った新しい文化や現在の生活文化とのつながりについての自分なりの考えをもたせるために、子どもたちの問題意識を基に、まず、金閣・銀閣とそれを建てた足利義満・義政と

の関係や時代背景を調べさせるようにする。その際、建築様式がそれまでの貴族や武士の文化に加えて中国風の文化を取り入れたものであることをとらえさせるようにする。そして、現在にもつながる文化の存在をよりよくとらえさせるために資料を基に、茶の湯や生け花、お伽話等について調べさせていく。そして、伝統文化として室町の文化が長い間守り受け継がれてきた背景を考えさせるために、現在の作品の鑑賞やそれを嗜む人の話を聞く活動を通して、どの時代の人々も室町に起こった文化のよさを味わいながら、大切に後世に伝えようとしてきたこと、同じ気持ちを我々現在の人々ももち得ていることを話し合わせるようにする。

ウ 追究した結果、自分なりに分かったことや考えたことを生かしながら室町時代の文化の特色を吟味させたり、当時の人々の営みに対する一人一人の見方・考え方を振り返らせたりしながら、歴史新聞等にまとめさせるようにする。その際、具体的な室町時代の文化を受け継ぐ作品等に触れる活動を通して、現在でも我が国の伝統文化として人々に親しまれているというよさやいつの時代でも人々が豊かな生活を求めており、それらを守り伝えてきたことを考えさせていきたい。さらに、現在に生きる自分たちも同じような気持ちをもって後世へ伝えていく態度が必要であることを感じ取らせていきたい。

3 目標

- (1) 室町の文化やそれを築き上げた人々の働きに関心をもち、これまでの学習や生活経験を振り返りながら、現在に受け継がれている文化を進んで調べたり、大切にしていこうとする意欲をもったりすることができる。
- (2) 室町時代の社会の様子や人々の働きと室町文化とを関連付けて考えることができるようにする。
- (3) 自分が調べて分かったことや考えたことを明確にしていくために、資料や具体物等を観察・調査したことを基に、歴史新聞等に表現することができる。
- (4) 当時の人々の生活や新しい文化の特色について理解し、それらが生まれてきた背景や、その文化が今日の私たちの生活にも引き継がれていることをとらえることができる。

4 指導計画（全5時間）

学習過程	主な学習活動	学び合う喜びや楽しみの深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる	1 金閣、銀閣、水墨画の資料を基に、学習問題を設定する。 室町の文化はどのようなものであろうか。現在まで受けつがれてきたのだろうか。	室町の文化には、 どんなものがあるのだろうか。	◎ 写真室に付たててき ◎ 真町にたれき、のまる「人継」にす受せ写 ◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写 ◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写
調べる	2 学習問題について予想をし、調べ立てる内容（追究の柱） ○ 建築様式、水墨画とそれに ○ 関連する人物文化継がれてきて ○ 現在の理由 3 建築様式や水墨画について調べる。 世界に誇る文化遺産 金閣 足利義満、書院風華 銀閣 足利義政、書院風華 水墨画 雪舟、中庵、中庵、中庵 これまでにない新しい文化	今の生活文化とが、 どうつながっているのか。 建築様式に新しい工夫が見られるんだ。 水墨画にも味わいがあるよ。	◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写 ◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写 ◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写
まとめ・生かす	4 室町の文化の特色や、受け継がれてきた背景について話し合う。 受け継がれる室町の文化 唐文化の文化 ← 中国の文化 武士の文化 ← 中国の文化 金閣・銀閣 ← 中国の文化 水墨画 ← 中国の文化 その他の様々な文化 茶の湯、生け花、能・狂言、御伽話など 地方へ伝播し、民衆に浸透 5 歴史新聞等にまとめる。	応仁の乱の影響で、 地方に伝わった。 当時から守られてきた大切な文化。 昔の人も自分たちと同じように生活していた。 自分たちも文化のよさを伝えていかなければならない。	◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写 ◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写 ◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写
	6 歴史新聞等にまとめる。		◎ 室町にたれき、のまる「人継」にす受せ写

2 本 時

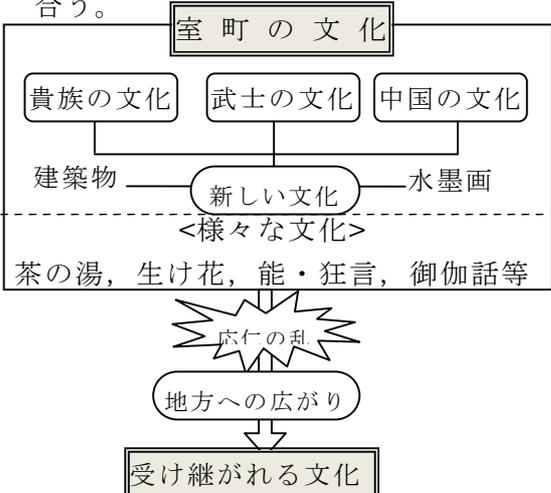
(1) 目 標 (4/5)

ア 室町の文化に生まれた新しい文化について、これまでの学習で培った見方・考え方を生かして、自分の生活の経験を振り返りながら主体的に追究することができる。

イ 室町の文化について、実物の観察やインタビューをする活動を通して、現在に受け継がれているという事実をとらえるとともに、文化を大切に、生活を豊かにしたいという気持ちはどの時代の人々も同じであるということに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

室町時代の文化に対する見方・考え方を高めさせるために、代表的な建築物や絵画に共通して見られる文化の特色を調べ、**室町の文化が受け継がれてきた背景や、室町の文化のよさについて考えさせるようにしていきたい。**

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
追究問題の具体化	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 室町時代におこった文化は、どのようにして現在まで受け継がれてきたのだろうか。	(分) ↑	㊦ 実物（書院造） ○ 現在に受け継がれている室町文化について問題意識を高めさせるために、写真を基に室町時代と現在のつながりについて考えさせる。 ○ 本時の学習の進め方を明確にし、見通しをもった追究ができるようにするために、これまでの学習で記述した歴史的事実や自分の考えをもとに話し合わせる。
究明計画	2 学習の進め方や資料について話し合う。 ・ 一人調べ→グループでの話し合い →全体での話し合い ・ 資料…自分の考えの根拠となるもの（記述）	7 ↓	㊦ 図（金閣内部） ㊦ 写真（雪舟） ○ 室町の文化が貴族、武士、中国の文化を取り入れ、新しい文化を形成したことをとらえさせるために、金閣内部の造りや雪舟の経歴に着目させ文化の特徴を考えさせる。
追究問題の究明	3 現在でも行われている室町文化について話し合う。 (1) 室町文化の特色について話し合う。 (2) 文化の広がりやよさについて話し合う。 	30 ↑	㊦ 絵（応仁の乱） ○ 室町の文化の地方への広がりをとらえさせるために、「なぜ応仁の乱が地方へ文化を広げるきっかけになったのか」と発問し、絵から都の様子を話し合わせるようにする。
まとめ	4 本時の学習についてまとめる。 これまでにない新しい文化である室町の文化は、都の戦乱をさげ、各地に広がり、長い年月をかけ大切に受け継いできた。 5次時の学習について話し合う。	8 ↓	㊦ 地図（祇園祭の分布） ○ 室町で栄えた文化が、地元鹿児島をはじめ地方に伝わり、人々が今でも受け継いでいるという事実をよりよく理解させるために、資料を基に、祇園祭の空間的、時間的な広がりをおさえて話し合わせるようにする。 ㊦ 実物（生け花、茶の湯道具、水墨画） ㊦ VTR（文化を嗜む人） ○ 受け継がれてきた文化のよさを実感させるために、作品を鑑賞させたり、文化を嗜む人の話を聞かせたりしながら自分なりの感想を話し合わせるとともに、文化に対する思いを考えさせるようにする。 ○ 文化を守り伝える大切さに気付かせるために、現存する文化遺産や伝統文化に対して自分たちはどうすべきかを考えさせる。